

インフルエンザ関連情報 ～インフルエンザの発生動向について～

1 概要

高知県感染症発生動向調査の平成28年第50週(12月12日～18日)報告で、定点医療機関当たりの報告数が2.25と、インフルエンザの流行期開始の指標とされている1.00を今シーズン初めて超えました。県内の流行期入りは例年と大きく変わらず、全国よりは1カ月遅くなっています。

* シーズンとは

9月から翌年の8月までを1シーズンとしています。

* 定点医療機関当たり報告数とは

インフルエンザの患者数を把握するために、県内48医療機関を定点医療機関として選定し、毎週患者数の報告をいただき、患者総数を定点医療機関数(48)で割った1医療機関当たりの報告数です。

2 全国・高知県内の発生動向(インフルエンザ)

(1) 全国

定点医療機関当たりの報告数は、平成28年第37週(9月5日～11日)以降増加し、平成28年第46週(11月14日～20日)で1.38となっており、昨年より1カ月以上早く流行期に入っています。最新のデータでは、平成28年第49週(12月5日～11日)が3.13となり、報告数が多かったのは、栃木県10.08、沖縄県9.64、岩手県8.94となっています。

直近の平成28年第45週～49週(11月7日～12月11日)の5週間におけるインフルエンザウイルスの検出状況は、A型が97.5%、B型が2.5%となっています。

(2) 高知県内

定点医療機関当たりの報告数は、平成28年第45週(11月7～13日)より増加し、平成28年第50週(12月12日～18日)で初めて1.00を超え、2.25となりました。報告数の多い順に幡多福祉保健所管内4.88、高知市保健所管内3.13、中央西福祉保健所管内2.00となっています。なお、安芸及び須崎福祉保健所管内からの報告はありませんでした。

県内医療機関での迅速キットによるインフルエンザウイルスの検出状況は、A型が98%、B型が2%となっており、全国の状況と同様にA型の割合が多くなっています。

(3) 高知県内保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校における休校数、学年閉鎖学校数、学級閉鎖学校数(平成28年第37週～50週までの累計)

休校0, 学年閉鎖学校2, 学級閉鎖学校2

3 予防対策と注意事項

【かからないために】

- ①こまめに手洗いやうがいをしましょう。
- ②でかけるときは、なるべく人ごみを避けましょう。
- ③十分な栄養と休養をとりましょう。

【人にうつさないようにするために】

- ①インフルエンザは、インフルエンザにかかった人の咳、くしゃみ等の飛沫により感染するため、咳やくしゃみが出るときはマスクをするなどの「咳エチケット」を守りましょう。
- ②人ごみへの外出を控え、無理をして学校や職場にいかないようにしましょう。

【医療機関を受診する時の注意点】

- ①事前に電話をして、受診時間や受診に際しての注意事項を確認しましょう。
- ②受診する際には、必ずマスクを着用しましょう。

4 その他

厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/>

国立感染症研究所感染症情報センターホームページ

<http://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/a/flu.html>

高知県健康対策課ホームページ

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/influ.html>

高知県感染症情報ホームページ

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/kansenshouzyouhou.html>

※高知県では、日本一の健康長寿県構想を策定し、
県民の健康づくりを重点的に進めています。

担当課：健康対策課
担当者：徳橋、宮地
電話：823-9677